

千葉県北西部 渋滞対策 ～WISENET2050※1による新たな取組～

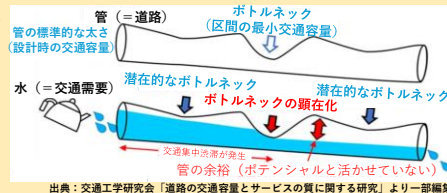


※1 ■WISENET2050 **W**orld-class **I**nfrastructure with **3S**(Smart, Safe, Sustainable) **E**mpowered **NET**work

国土交通省において2023年10月に公表された政策集。

2050年、世界一、賢く・安全で・持続可能な基盤ネットワークシステムの実現に向け、シームレスネットワークの構築や技術創造による多機能空間への進化に取り組む。

例えば、時間的・空間的に偏在する交通需要や渋滞に対し、データを活用したパフォーマンス・マネジメントにより、ボトルネック対策を効率的・効果的に実施し、サービス向上を実現。



- ・千葉県北西部の渋滞解消を最重要課題として取り組んでいるが、**依然として深刻な渋滞が発生**。
- ・人・モノが集中し、面的に渋滞が発生している千葉県北西部では、これまでの国、県、市の道路整備だけではなく、**道路利用者と連携したハード・ソフトが一体となった総合的な取組**が必要。
- ・ETC2.0などの**ビッグデータ**を活用した**パフォーマンス・マネジメント**により、効率的かつ効果的に課題を把握し、関係者間で情報共有。
- ・千葉県北西部の交通渋滞に対し、関係者による「**千葉県北西部渋滞対策会議**」を**新たに設置し、あらゆる関係者の協働による対策を実施**。

千葉県北西部渋滞対策会議

【道路管理者】

- ・千葉県 県土整備部長
- ・関係市 副市長級
- ・国 千葉国道事務所長 等※2

【道路利用者】※2

- ・業界団体
- ・民間企業 等

※2 検討範囲や参画者の拡大を検討

【取組内容】

- ・ETC2.0の旅行速度等のデータに基づく定期的な渋滞状況のモニタリングや情報共有
- ・賢い道路利用(TDM)の働きかけ
- ・市の取組を含めた検討
- ・短期対策の提案や中長期対策の実施・加速

中長期対策

船橋我孫子線 四車線化検討

・限られた南北軸の強化



データを活用した渋滞状況モニタリング

- データプラットフォーム「xROAD」の活用
- ・ETC2.0のデータ等を活用し渋滞状況をモニタリング



xROAD ホームページ

OODA（ウーダ）ループ※3の考え方を活用した迅速かつ柔軟な検討

※3■OODAループ

- ・「Observe（観察）」、「Orient（状況判断）」、「Decide（意思決定）」、「Action（実行）」の4ステップを繰り返し、変化する状況に迅速かつ柔軟に対応する意思決定フレームワーク

TDMの検討・実施

■TDM（交通需要マネジメント）

- ・公共交通機関や自転車の利用など、自動車の利用者の交通行動の変更を促すことで交通混雑の緩和について検討します。

短期対策

- 短期対策の例
- ・用地買収などが生じない対策として、信号現示の調整や既存用地内での拡幅や自転車通行帯の設置など

国道357号 塩浜立体

- ・立体交差化することで、交差点を通過する交通が立体部へ転換し、交差点の渋滞が緩和され、安全性の向上などが期待。



賢い道路利用の働きかけ

自転車環境整備

公共交通利用促進

マイカーから鉄道やバスなどの移動に！



R2.11 千葉県自転車活用推進計画抜粋